

地域ぐるみで育てよう

～しおだっ子応援団の取組み事例～



塩田地域学校支援運営協議会



地域の力を学校へ

子どもたちの教育は、全ての大人の責任であり、家庭、学校、社会が自らの責任を自覚し、分担しながら相互に連携をして行われなくてはなりません。

しかし、人々のつながりの希薄化や核家族化などによって、大人が子どもたちと関わる機会が少なくなり、家庭や地域の教育力の低下を招いてしまいました。

社会生活では、さまざまな問題が発生し、特に青少年を取り巻く環境は子どもたちにとって決して良いものとはいえません。このことに、私たち大人が気づき、人生の先輩として、同じ地域に住む大人として、子どもたちをしっかりと育てていかなければなりません。

国においては、平成18年に教育基本法を改正し、「学校、家庭、地域社会の相互の協力」について明記をするとともに、平成20年には、教育振興基本計画を策定して、地域ぐるみでの学校支援を施策のひとつとして掲げました。

この具体的な事業として、平成20年度から地域が学校の要望に応じて教育活動の支援をしていく「学校支援地域本部事業」が始まりました。

この事業は、教職員の教育活動などを地域の方に支援していただくことによって、子どもたちと向き合う時間を増やし、また、地域の大人が学校のために結集し、学校や子どもたちに関心を寄せ、共に取り組むことによって絆を深め、地域の教育力を高めることにつながっていくとするものです。

上田市では、地域が学校を支援するモデルの一つとして、地域住民の交流や学習の拠点である公民館と連携して支援に取り組み、塩田地域学校支援運営協議会（しおだっ子応援団）を立ち上げて、事業の取り組み方法や課題の発見、取り組みの成果などを検証してまいりました。

この冊子は、このような取り組みが、今後も多くの地域と学校の中で生かされていくことを望み、実践事例としてだけでなく、事業の立ち上げについての説明を加えた内容にまとめさせていただきました。

この学校支援の活動は、見方を変えれば、地域や家庭の教育力の回復や地域の連帯感の形成といった私たち大人社会の修復であるかもしれません。

今後も、地域の連携を更に強め、一層の推進に努めてまいりますので、皆様の御支援と御協力をお願いいたします。

学校支援地域本部事業について

学校支援地域本部とは

- 学校が教育活動の中で、支援を必要とする活動について地域でできることを話し合い、地域の方にボランティアをお願いして学校に派遣する組織です。
- 学校の求めと地域の力をマッチングさせて、より効果的に子どもたちを育て、住み良い地域づくりをめざしています。

地域に作られた
学校の応援団です。

なぜ必要なの

- 学校に過剰な役割が求められ、現場の先生たちが子どもと向き合う時間がとれない。
- 地域のつながりが希薄化して、大人が子どもたちの教育をできなくなった。
- 地域に愛着がなければ、大人になっても地域を支えていけない。
- 子どもを育てていくのは、大人の責任であるから。

大切な子どもたちを
いっしょに育てたい。

どんな目的があるの

学校教育の充実

- 教員だけでは担いきれない活動や地域の大人から学んだほうが良い授業などを地域の方に手伝ってもらうことで、教員が子どもと向き合う時間を増やしていくことができます。

地域の教育力の向上

- 地域の住民がボランティアとして、「自分のできることを、できるときに、できるところから」学校に関わっていくことによって、地域と子ども、地域と学校、住民同士の絆が深まります。

生涯学習社会の充実

- 自分の知識や経験を学校の教育活動を通じて子どもたちに教えることによって、学習の成果が活かされるとともに、自己実現や生きがいづくりにもつなげることができます。

地域に愛されなければ、
地域を愛する子どもは育たない。

学校支援地域本部のしくみ

どのような仕組みで行えば良いのですか

- ◆ 学校を支援する 「実行委員会」(地域本部)
 - ◆ 連絡調整役となる 「地域コーディネーター」
 - ◆ 地域住民による 「支援ボランティア」
- が必要です。

上田市では中学校区と公民館の管轄が同じ塩田地区をモデル地域として、公民館と社会教育指導員を活動の中心に置き、地域の協議会(しおだっ子応援団)が設置され塩田中学校の支援をしています。

支援の内容については、学校の支援要望を聞くとともに、地域の側でできる支援についても提案し、塩田中学校では「環境整備」と「学習支援」を中心とした支援を行なっています。

手順

考え方

塩田地域では

STEP 1 組織を作る

◆実行委員会(地域本部)

委員の構成は、自治会、学校、PTA、企業、公民館、青少年育成団体、市民団体など地域の中で課題を話し合い、目標を共有化して、互いに連携できる体制をとれることが良いでしょう。

もちろん既存組織の活用もできます。

※各公民館にご相談ください。

しおだっ子応援団

塩田地域協議会、塩田中学校評議員、社会教育委員、塩田中学校長、塩田地域自治会連合会、塩田中学校PTA、少年補導委員、地域住民代表、農業バイオセンター、長野大学、市民団体 12名

STEP 2 人選する

◆地域コーディネーター

学校の要望を聞き、地域に協力者を募って、学校と地域の連絡・調整をする人です。これまで先生が行っていた講師探しや依頼・日程調整などの事務を地域コーディネーターが行うことで、学校の負担軽減にもなります。

地域コーディネーターは、学校と地域双方の実情を良く知っている、PTAの元役員や教員OB、公民館職員などが良いでしょう。

もちろん、複数の方がいても良いと思います。

塩田公民館 社会教育指導員 1名

STEP 4 支援者を募る

STEP 3 学校の要望を 聞く

◆学校支援ボランティア

子どもたちの教育のために役立ちたいという熱い思いを持って、学校の教育活動や環境整備などを支援します。

公民館の講座受講者、教員OB、NPO、学習サークルなど

STEP 5 支援を行う

学 校

塩田中学校

学習支援・部活の補助・行事の手伝い・環境整備・登下校の安全確保など

環境整備 学習支援 学校行事

事業に関するお問い合わせ先 上田市教育委員会 生涯学習課 23-6370 学校教育課 23-5101

ねんごとき わん



学習支援

平日 8:30~12:35

毎日、ボランティアのみなさん

が学校を訪れ、授業の補助や特別支援教室での援助、また、外国籍の生徒のための日本語支援等を行っています。

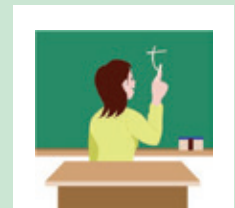
活動内容は日々違いますので、先生方からの依頼を、毎朝、教頭先生がコーディネートし、活動終了後、報告書に記載、職員やボランティア同士の相互理解に役立てます。

参加ボランティア

H21年度 延478名

H22年度 延468名

H23年度 延358名

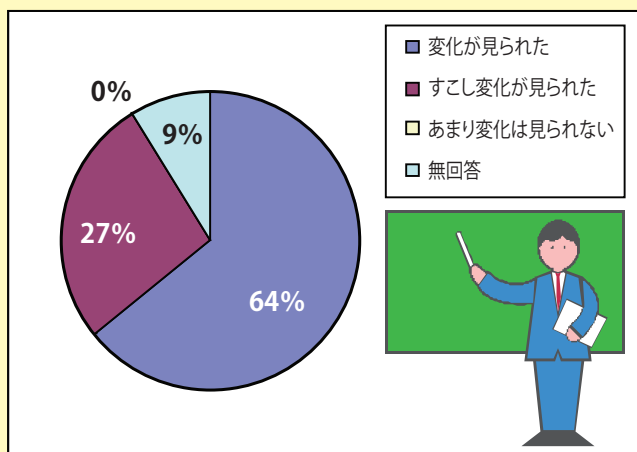


ここがわからないんですけど、教えてください

支援教室

学校の空き教室をつかって、ボランティアや先生方、PTA等、みんなで作りました。

〈学校職員アンケートより〉



比較的肯定的な受止めが多く、今後も支援が必要と感じている。

Q ボランティアの参加により生徒の様子に変化が見られましたか？

（先生方の声）

- ★生徒たちのあいさつが増えた。
落ち着いて授業に取り組むようになった。
- ★学習内容の理解が深まった。
- ★授業がわからず意欲を失っている生徒が、個別対応していただけるおかげで、前向きな活動ができている。
- ★ボランティアの方に話しかけていただき、とてもうれしそうに話をしていました。

できあがり

環境整備

学校の正面玄関前の
ロータリーや花壇・プランターの植栽、
卒業生に送る一人一鉢…等、緑化委員会
4年生としてボランティアのみなさんが
通常の委員会活動にも参加しながら活動
しています。

参加ボランティア

H21年度 延682名

H22年度 延301名

H23年度 延167名



卒業生のために
がんばって植えました



ボランティアのみなさん、
いつもありがとうございます

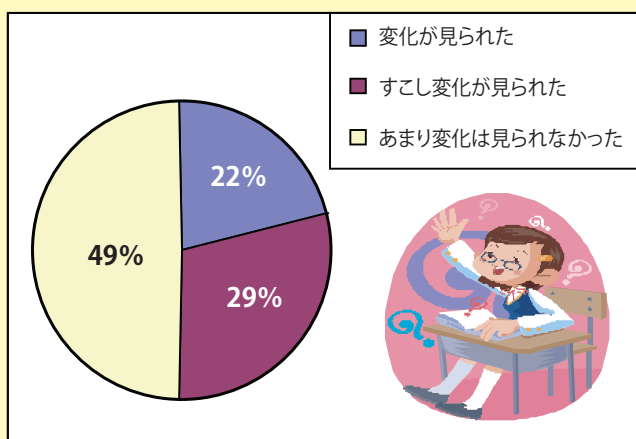
『上田市花と緑のまちづくりコンクール』

平成 21 年 最優秀賞受賞

平成 22 年 奨励賞受賞

〈ボランティアの皆さんから〉 花を育てることは、命を育てることで。
生徒やPTAのみなさんといっしょに活動の輪がひろがっていくことを願っています。

〈生徒のアンケートより〉



変化を感じた生徒のほとんどが、
右のような肯定的な受けとめをしている。

Q ボランティアが学校に来ることで 生活に変化が見られましたか？

（生徒の声）

- ★教室から、ボランティアの方が花壇の整備をしているのが見えて「うれしいな」と思った。
- ★学校中が花であふれた。
- ★授業中わからない事を質問できるようになった。
丁寧教えてくださるので苦手が減った。
- ★自分自身の地域との接し方が変わった。
- ★地域の方々への感謝の気持ちが強まった。

おはらいど もの

学校行事等



塩田めぐり

一学年の総合的な学習の時間に、地域ボランティアによる文化財の解説をはじめとして、茶道や座禅、りんごの収穫、芝生の公園でのヨガ、区内の高校との交流などの体験を通じて五感をフルに使った地域学習をしました。

参加ボランティア

- H21年度 25名
- H22年度 69名
- H23年度 197名



ワイン用の葡萄の手入れ作業を体験しました!試飲は大人になってから…(笑)

職業体験

二学年の総合的な学習

新校舎見学



建設中の新校舎の中に特別に入れていただき、工事関係の方から建物の案内や建設の苦労話をお聞きし、その様子をボランティアの方と一緒に番組制作。文化祭のオープニングとして上映しました。



消防ラッパ♪～

地域の消防団のみなさんの指導で、文化祭のオープニングファンファーレを演奏しました。当日もちろん一緒に吹いていただきました。

曲名は『ファンファーレ“No1”』



緊張の一瞬



〈ボランティアのみなさんから〉

- ★全校生徒がボランティアの存在に慣れてきて、自然な存在になってきていると感じる。
- ★担任の先生が、空き時間をつかって教科学習を参観している姿に遭遇し、「その熱意はきっと生徒に伝わる。」と思った。
- ★若い先生方から、授業の進め方について意見を求められた。その前向きな姿に非常に感銘を受けた。

まちの未来を担う 子どもたちのために

子ども

地域の力を学校へ

現在、家庭や地域の教育力の低下や子どもたちを取り巻く環境の悪化が指摘されています。今こそ大人たちが、地域を担っていく子どもたちのために力を発揮する時です。

地域

学校

「どんな大人になってほしいですか」

H22. 塩田地区青少年育成推進大会 宣言
し … しおだをまるごと愛する人
お … 思いやりの心で支えあう人
だ … ダイヤモンドのようにどこでも輝く人

学校教育目標

- 1 充実した学習を積み上げる
- 2 たくましい心身を育てる
- 3 正しい道德心をのぼす
- 4 豊かな心情を培う

具体目標

- 考える
- 鍛える
- 慈しむ

子どもたちは「地域の宝」

塩田地域学校支援運営協議会長 大口 義明
地域に呼びかけ、60名を超す多くの方の力を借りて活動を開始しました。

当初は、戸惑いもありましたが、先生や生徒との話し合いを通じ、先生方のご苦労や生徒の悩みも少しずつ理解することができ、真剣に話し合えることができました。校舎内外の清掃も行き届き、常に花が飾られる心安らぐ学校生活を送れるようになってきています。

今後、しおだっ子が思いやりの心を忘れない、誰からも信頼される社会人になってくれることを心から望み、地域を挙げて子どもたちを見守り互いに助け合える住みよい塩田になるよう願っています。

学校を変える地域の力

塩田中学校長 池田 隆

しおだっ子応援団が発足して五年目になります。今では、応援団の皆さんが毎日学校に来てくださることが当たり前になっています。

授業でわからないところをみってくれる、廊下で声をかけてくれる、合唱のパート練習に加わってくれる、一緒に花壇づくりを手伝ってくれる・・・そんな皆さんと生徒はすっかり顔なじみになりました。

地域と学校とのつながりによって、生徒は落ち着いた学校生活を送ることができるようになりました。しおだっ子応援団の皆さんの地道な取組みにあらためて感謝申し上げる次第です。

地域全体で学校教育支援

上田市の「国」の地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える事業「学校支援地域本部事業」で、最初に塩田中学校地域を対象に取り組みをスタートし、25日に2回目の「塩田地域学校支援運営協議会（大口義明会長）を塩田



塩田をモデル地区として選んだ。塩田地域学校支援地域本部は、同協議会、地域コーディネーター、学校支援ボランティアで構成。同協議会はどのような支援を行うか企画し、コーディネーターが連絡調整を担う。同協議会は、地域協議会や自治会、中学校学校評議員など学校関係者、地域の機関として長野大学、農業ハイオセンター、市民団体「こみ」となどで構成。10月に初代会、塩田中の環境整備と学習支援を協議している。環境整備では校舎建て替えに合わせ、地域ボランティアによる花壇づくりなど環境美化を計画し、「公民館（大田）でボランティア募集を呼びかけ、公民館講座「緑の連続性」受講者に参加を依頼している。学習支援は基礎学力をつける授業補助で、同校では学習面で問題を抱える生徒が少なくないため、一刻も早い支援を学校側が求めている。支援ボランティアの居場所のため、校内の中間教室を改装する計画で、PTAなどが協力し1月中旬の完成を目指す。支援ボランティアは現在退職した教員8人を確保した。会合で大口会長は「早い段階で実際に活動してほしい」と呼びかけ、事業経過の報告と各委員が熱心に意見を交わした。ボランティア参加など問い合わせ38・6833（塩田公民館）

学校支える支援ボランティア 空き教室に拠点整備

地域全体で学校教育を支える上田市の塩田地域学校支援本部は25日、塩田中の空き教室を学校支援ボランティアの活動拠点として使えるようにそうじや改修を行った【写真】。

上田の塩田地域学校支援本部



学校支援ボランティアは、同本部の構成メンバーで、改修した空き教室に常駐し、主に元教員らによる学習支援や、地域の住民ボランティアによる学校の環境整備活動を行う。空き教室での作業には、塩田中PTAや塩田地区3小学校の児童の父親らでつくる「おやじの会」も参加して畳を敷いたり、窓をふいたりした。同本部は、地域で学校の応援団を組織

する事業を文科省の委託を受けて行う。主な構成メンバーは、学校支援ボランティアのほか、自治会や保護者会でつくる「塩田地域学校支援運営協議会」（大口義明会長、塩田公民館の「地域コーディネーター」）。大口会長は「子どもを地域みんなが見守る事業に誰もが参加できるようにしたい。また活動拠点の空き教室に子どもたちが気軽に入れる雰囲気づくりをしていきたい」と話していた。

信濃毎日新聞：平成21年7月5日(日)

2年目の 学校支援地域本部事業

教員に時間 生徒に変化



昨秋始動の上田・塩田中
2日朝、赤いもで名前を下げた。クラスや集まりにない生徒達も「おやじの会」の男性。教室、図書室で目まぐるしくの生徒人交りに取らされた。行き先は、徒の日本講義に付き合う人もい学習つまずきかちな生徒のいる。た。

授業の合間に校長(左)と話す学習支援ボランティア、教員の負担軽減につなげている。上田市塩田中学校

学校支援地域本部事業は、原則として中学校と塩田の自治会、住民団体の代表、校長が協議会を立ち上げ、校区内の学校の支援を担う。学校の調整やボランティアの調整は地域コーディネーターが担う。文科省によると、全国の510市町村が39の地域本部ができた。5月本報は、「4日では、上田、調、茅野など市町と町にあり、市町村のモデル事業として実施。協議会の運営費やボランティアの謝金などは国が負担し、学習支援や環境整備のほか、部活動の支援、登

事業の背景 多忙な現場 県内では31市町村で実施

下校時の足りといった活動多い。文科省事業を始めた背景は、学校現場が年々多忙になり、現場にある教員が自身の勤務時間外に、3年前に比べて時間短縮が求められ、教員に求められることも増えていること。文科省は「地域の支援を得ることで、教員がより高いことや授業準備に時間を充てられる」と説明。「地域住民が力を発揮する場」にあり得るとしている。

学習支援や 住民の輪「広がり」を

生徒約100人が参加した。同校には、学習支援ボランティアが初参入。学校を応援する組織として昨年10月に発足した塩田地域学校支援運営協議会が、住民による学習支援活動の柱にした。塩田公民館を活動の中心に約40分半を予定し、当番制で、生徒と一緒に花を植えたり、塩田地区に住む教員約40人を訪問して協力を求めた。ボランティアの一人、岡村隆之(60)は教員時代、同校教えた経験がある。再び入った学校の様子を自ら分ちの視座で捉え、「こころ」を一つ一つ、初めは声掛けに反応がなかった生徒でも、今は受け答えできるようになったと変化を感じる。同校ではこれまで、支援が必要な生徒がいる授業の補助は、空き教室の教員がしていた。上原校長は「ボランティアのおかげで教員は空き時間に準備できる。時間確保する上かなり救われている。養成講座も予定している。

地域が学校運営を支える仕組みをつくる文科省の「学校支援地域本部事業」が2年目を迎えた。県内では本年度、31市町村が取り組む。昨年度開始した地域では、住民が学校に入ること、教員の負担が軽減され、子どもたちにも変化が表れているという。「地域の学校応援団」として定着するには、支援の輪が広がるしかない。昨秋始動した上田市塩田中学校を訪れた。

これから取組む皆さんへ

しおだっ子応援団 心得16ヶ条

- 一、とくにあえず 入ってみよう 学校へ
- 一、失敗を 恐れちゃ何も 始まらない
- 一、子どもから 教わるつもりで 参加しよう
- 一、子どもらと 同じ高さの まなざしで
- 一、最初から 受け入れてくれっこ ありません
- 一、思うように 育たないのが 子どもたち
- 一、思うように 育てちゃいけない 子どもたち
- 一、無視される 悪態つかれる でも平気
- 一、悪態は こちらを認めた 証拠です
- 一、ボランティア 子どもを育てる 要(かなめ)です
- 一、先生は 子どもを育てる 仲間です
- 一、悪がきも 塩田の未来の 宝です
- 一、原石(子どもら)は 磨かなければ 光らない
- 一、学校は そんなに急に 変わらない
- 一、あせらない 成果と評価は 長い目で
- 一、だいじょうぶ 地域の力 信じよう